

まちづくり推進部の方針書

部名	まちづくり推進部
部長名	佐藤 勉

1. 部の使命(ありたい姿)

協働・文化・安全安心・健康をキーワードに、「人と地域が燦くまち」を支えます。	
担当政策	政策6: やさしさと笑顔があふれる市民が主役の地域づくりを進めます
担当施策	3-1: 安心して暮らすことのできるまちづくりの推進 6-1: 市民の主体的な活動の支援と地域づくり活動の充実 6-2: 男女が尊重しあう社会づくり 6-4: 市内外との交流連携の推進

2. 部の抱える課題(現状)

<ul style="list-style-type: none"> ○地域課題の解決を目指す自主運営組織設立の全市展開を目指しています。 ○応援人口とのつながりを深め、歴史・文化・マンガ等、横手の宝を活かした魅力あふれるまちづくりを目指しています。 ○FM計画に沿った公共施設の長寿命化と適正な維持管理を目指しています。 ○住民と協働して安全安心で活力あるまちづくりを目指しています。

3. 今年度の『スローガン』

◇対話と連携、創意と工夫で地域に元気をもたらそう

4. 今年度の方針

<ul style="list-style-type: none"> (1) 市民が主役の地域活動による持続可能なまちづくりと、応援人口との関係深化につながる取り組みを進めるとともに、移住定住対策を効果的に進め、人口減少ストップを目指します。 (2) 歴史・文化・マンガ等、横手の宝を活かした、市民が誇りに思えるまちづくりを進めます。 (3) 公共施設の長寿命化と適正な維持管理による安全安心の確保と、市民サービスの向上を図ります。

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市民が主役の地域活動による持続可能なまちづくりと、応援人口の創出・関係深化等で地域に元気をもたらす
	取組内容	①地域の自主的な活動を支える諸制度の周知に努め、積極的な活用で活力ある地域づくりを支援する。 ②十文字、浅舞地区の自主運営組織設立を支援するとともに、朝倉地区における地域の現状把握と自主運営組織の周知を図り住民意識の醸成を進める。 ③応援人口の創出・関係深化とふるさと納税の推進、移住定住の促進に向け効果的に事業を展開する。 ④ワークライフバランスと男女共同参画、国際交流の推進を図る。
(2)	実現したい成果	歴史・文化・マンガ等、横手の宝を活かした、市民が誇りに思えるまちづくり
	取組内容	①文化観光拠点としての増田まんが美術館の活用と情報発信を進める。 ②重要伝統的建造物群保存事業の着実な実施により増田の町並みの魅力向上を図る。 ③歴史的風致維持向上計画に位置付けられた文化資源を活用した各種事業を推進する。 ④横手の宝を活かした情報発信と観光地域づくりを関係部局・団体と連携して進める。
(3)	実現したい成果	公共施設の適正な維持管理による安全安心の確保と市民サービスの向上
	取組内容	①道路・河川・公園・建物等公共施設の適正な維持管理を進める。 ②公共施設(インフラを除く)の利用状況を見える化して、各施設のFM計画再配置方針の周知を図る。 ③関係部局と連携して、窓口サービス向上と健康寿命延伸を目指すとともに、今後到来するデジタル社会を支えるツールであるマイナンバーカードの保有率向上に努める。

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- ①市民が主役の地域活動による持続可能なまちづくりと、応援人口の創出・関係深化等で地域に元気をもたらす
- ・補助金制度とコミュニティ助成事業について広く市民へ周知するため、わかりやすい市民向けのチラシを作成して全戸配布を実施した。(8/1号)
 - ・十文字地区はR6年4月からの自主運営組織による地区交流センター事業開始に向けて準備委員会を立ち上げて検討を進めている。浅舞地区はR6年4月からの自主運営組織設立に向けて地区住民WSを2回実施した。
 - ・これまで東京で4回開催してきた「なべっこ遠足」を、より距離の近い応援人口を対象として、10/22仙台にて開催を計画中。
 - ・9月1日より新たに2サイト(au PAYふるさと納税、セゾンのふるさと納税)追加し、計8サイトへと拡充を図った。寄附金額に関しても9月末時点で対前年比130%を上回る見込みとなっている。
 - ・輝く女性リーダーを応援するワークスタイル研修「よこてジェンズ養成講座」を、7/25・8/10(同一内容)に実施した。
 - ・第1回市男女共同参画推進委員会を6/27に開催し、令和4年度における男女共同参画行動計画の実績報告を行うとともに委員から様々なアドバイスをいただいた。
- ②歴史・文化・マンガ等、横手の宝を活かした、市民が誇りに思えるまちづくり
- ・旧片野家の活用や講座の開催、まちあるき他、音声AR等の新たなコンテンツを通して文化資源の周知と北部重点区域の回遊性の強化を図った。
 - 旧片野家住宅の活用(庭園開放3日間、トライアル開放6団体)、市民大学講座(開催回数3回/参加人数71人)、横手城下語りべ講座(開催回数6回/参加人数108人)、まちあるき「うらからよこて」(開催回数1回/参加人数15人)音声ARアプリ供用開始(使用人数20人※9/20現在)、スマートフォン向けゲームアプリ(Pokémon GO)実装開始
 - ・重要伝統的建造物群保存・活用事業を着実に実施している。
 - 修理事業4件実施しているほか、重伝建地区選定10周年記念シンポジウム開催(11/12予定)に向け準備中。
 - また、まちなみエリアの課題である雪対策アンケートを実施。
 - ・横手市増田まんが美術館やマンガ文化等を活かした事業を実施している。
 - 大型企画展等と連動し、市内事業者と連携し企画実施し、美術館を拠点とした市内への周遊を図ったほか、多様なマンガ活用事業(特別授業受入れ4校/学童保育による美術館利用11団体/マガジン制作プロジェクト応募総数103人)、情報発信事業(サボータ通信発行2回/ユニークベンチャー実施に向け準備中)を実施した。
- ③公共施設の適正な維持管理による安全安心の確保と市民サービスの向上
- ・FM計画の再配置方針に基づき、増田地域で大規模改修が必要となる施設の改修方針について住民との協議を開始。また、計画推進のため、地域局内部での協議にも取り組んだ。
 - ・道路、公園等市民の身近な公共施設の安全パトロール、早期修繕により、市民の安全安心の確保に努めている。
 - ・市民サービス向上のため、課内での研修を実施した他、個人研修にも積極的な参加の機会を確保した。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- ①市民が主役の地域活動による持続可能なまちづくりと、応援人口の創出・関係深化等で地域に元気をもたらす
- ・浅舞地区にてR7年4月から自主運営組織による地区交流センターの運営に向けて、準備委員会等設置を目指す。朝倉地区交流センターについては、自主運営組織設立に向けて地区住民への説明会開催を検討。
 - ・センター職員や運営協議会委員、地域課担当職員を対象に研修会を開催(2回/年4回)。お互いの情報共有、学び合い、磨き合いの場として「地区交流センターまつり(仮称)」を開催する。
 - ・10/22「なべっこ遠足in仙台」を開催する。また、参加者自らにより積極的な行動へつがるきっかけ作りとしてイベント内で「よこてとつながるワークショップ(仮)」を実施する。
 - ・横手市での日常生活体験ができる場を提供するため、さくら荘コテージを3泊以上宿泊する場合、使用料の一部を市が負担する「横手暮らし体験事業」を10/1から実施する。
 - ・令和5年6月のふるさと納税制度の一部改正により、ふるさと納税の地場産品基準や募集等に要する経費管理の厳格化が図られたことにより、これまで以上に経費管理を適切に行なっていく。予算を要するPRのみならず、プレスリリース等のPR・情報発信も活用を進めていく。
 - ・2/24に男女共同参画フェスティバルを開催し、ダイバーシティ(多様性)をテーマに普及啓発活動を行っていく。
- ②歴史・文化・マンガ等、横手の宝を活かした、市民が誇りに思えるまちづくり
- ・市民に対する地域遺産の周知、北部重点区域の回遊性向上に努めるため、旧片野家の活用や歴史イベントの開催、市民大学講座等各種事業を継続して実施する。事業終了後にはその結果を検証して次年度事業へ反映させていく。
 - ・令和6年度以降の保存整備事業の計画的な実施と防災対策が必要であり、まちなみ研究会、横手市伝統的建造物群保存審議会の意見を受けながら計画的に事業を実施していく。また、まちなみ雪対策アンケートの分析を行い、重伝建地区選定10周年を機に、これまでの課題整理とこれからのまちづくりを考えていく。
- ③公共施設の適正な維持管理による安全安心の確保と市民サービスの向上
- ・FM計画の着実な推進のため、市民との対話を継続して行っていく。
 - ・降雪期を控え、安全安心な作業実施と適正な維持管理ができるよう、関係機関と連携して業務を推進していく。
 - ・個々の業務スキル向上に引き続き取り組み、市民一人ひとりの気持ちに寄り添いながら丁寧な市民対応に努めていく。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- ①市民が主役の地域活動による持続可能なまちづくりと、応援人口の創出・関係深化等で地域に元気をもたらす
- ・十文字地区の運営協議会設立総会が3/30開催が決まり、浅舞地区は地区住民WSを5回開催。浅舞はR7年4月の運営組織設立に向けて、準備委員会発足を目指していく。
 - ・センター職員のほか運営協議会の委員も対象とした研修会を4回実施。2/1には自慢発表による学び合いと交流を目的とした「地区交流センター大交流会」を開催し、各センター関係者の好評を得ることができた。次年度以降も継続開催していく。
 - ・10/22「なべっこ遠足in仙台」は42名が参加。また、参加者自らにより積極的な行動へつがるきっかけ作りとしてイベント内で「よこてとつながるワークショップ」を実施し、横手を応援する具体策について活発な意見が交わされた。R6年度は「応援人口に応援を求めるイベント」から「ふるさと納税寄附者に対して市からの感謝を伝えるイベント」に再構築して実施する。
 - ・横手市での日常生活体験ができる場を提供するため、さくら荘コテージを3泊以上宿泊する場合、使用料の一部を市が負担する「横手暮らし体験事業」を10/1から実施し、延べ5組の利用があった。R6年度も本事業を継続する。
 - ・ふるさと納税では、既存返礼品のブラッシュアップに注力し、主要な返礼品(米・日本酒・果樹)が前年度を上回った。R6年度は新規返礼品を追加しつつ、横手市の返礼品が選ばれるよう、既存返礼品の更なるブラッシュアップに取り組む。また、横手市を訪れ滞在していただくことを前提とした旅行クーポン等の拡充も図る。募集サイトは2サイト追加し全8サイトとし、R6年1月末時点で対前年比130%を上回る寄附実績となっている。一方で、サイト追加に伴う管理事務も増えていることから、R6年度はサイト追加だけでなく既存サイトの見直しも含め慎重に検討する。
- ②歴史・文化・マンガ等、横手の宝を活かした、市民が誇りに思えるまちづくり
- ・旧片野家の活用や歴史イベントの開催、市民大学講座等各種事業により文化資源の活用を図った。特に旧片野家については、トライアル開放の他かまぐら会場として施設の魅力をアピールすることができ、次年度以降の取り組みに弾みをつけることができた。
 - ・令和6年度以降の重伝建地区保存整備事業の計画的な実施と防災意識の向上を図るため、重伝建地区選定10周年を機に、歴史的な町並みを将来に継承し地域振興や産業の育成につなげていく意識を関係者とも共有した。
 - ・市が推進しているマンガ文化の多様な活用を図るため、市内事業者等と連携して美術館での大型企画展と連携した企画を実施し、美術館を拠点とした市内周遊を図った。また、教育機関等と連携したマンガを活かした豊かな学びの機会の提供、情報発信の強化、美術館の適正な管理運営など、横手市増田まんが美術館やマンガ文化等を活かした事業を実施した。次年度はリニューアル後5年の節目であることから、これまでの事業の検証と精査を行い、マンガ文化等の多様な活用を進めていく。
- ③公共施設の適正な維持管理による安全安心の確保と市民サービスの向上
- ・FM計画の趣旨に添い、施設の統廃合について調整を図り、施設利用者の利便性向上に寄与することができた。今後も引き続き市民との対話を継続し、適正な維持管理に努めていく。
 - ・市民に身近な行政窓口として、今後も市民一人ひとりの気持ちに寄り添いながら丁寧な市民対応に努めていく。